

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 27日

事業所名 放課後等デイサービス クックルームよこて

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	67%	33%	・定員を守っている。 ・定員は守られていますが、ご利用者様が大きくなると狭く感じるようになりました。 ・バギー置き場や座保持置き場等に工夫が必要だと思います。	ご利用者様は6歳から18歳と成長著しい年齢なので、高校生になると体も大きく成長するので活動範囲も広くなり指導スペースが手狭に感じられることが多くなっています。そのため戸外での活動を増やしたり、内容を工夫するなどしてゆっくり過ごせるように心がけていきます。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	・安全な対応ができるように1対1を心がけている。	食事や外出、個別の課題についての活動はできる限り個別に対応できるように配慮し、丁寧な支援を行ってまいります。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	・スロープ設置や段差のない設備などを考慮している。	スロープの設置には危険が伴わないように細心の配慮を行っています。また設置については定期的な点検を行い、今年度は木製から金属製に取替えました。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	・毎月の支援会議で情報共有している。 ・支援会議でご利用者様の計画等を話し合っている。	支援会議に参加できない職員には、支援計画や会議の報告書を回覧し周知を行っています。またそれぞれが日々のご利用状況を閲覧することで最新の状況の把握を行っています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	・情報共有している。 ・毎年の評価を確認しています。	アンケート調査の結果は、少数のご意見であっても支援を振り返り職員の意識や改善に役立てていきます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		自己評価の結果は公表していますが、今後もご利用者様に周知していただき開かれた事業所を目指していきます。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	67%	33%		これまで大きな事故や問題はなかったが、理事会に課題を挙げることで第三者の評価を受け職員間のハラスメント等の改善につなげていきます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	・年間を通して、研修をし。職員全員のスキルアップに努めている。	研修委員を選出し、年間計画を作成したうえで実施している。職員が参加しやすいようにウェブサイトを使用したり、研修を受けた後に伝達講習をするなどして職員の資質向上を目指しています。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%		定期的なアセスメントと支援計画作成、モニタリング等を実施してサービス支援計画を作成しています。ご利用者様にご家庭やご自身の変化があった場合は常に最新の情報を把握し考慮しています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%		ご利用者に肢体不自由児のお子様が多く、標準化されたもの以外に支援に必要なアセスメントを参考にしています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	67%	33%	・支援会議で意見率案等をしている。	支援者の見方や見解、アイデアを支援会議の中で検討し活動プログラムを作成していきます。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%		支援者の新しい知識や考えなど時代に沿った情報を共有して、常に利用者が楽しめるよう工夫していきます。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%		ご利用時間に合わせて、様々な課題を用意して有意義な時間が過ごせるようにしていきます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	発達段階に応じて個別活動を取り入れている。	引き続きご利用者のお一人おひとりに合った活動を作成し実施していきます。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	・朝礼や昼礼が毎日確実ににはできないが伝達は必ずするよう努めている。 ・もう少し打合せが必要だと思います。	連絡調整、打ち合わせは欠かせないので今後も続けていきます。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	・得た情報は共有している。 ・職員の就業時間がバラバラなため全員そろっては難しい。	支援者全員に周知するための連絡、記録の参照などいつでも情報を共有できるようにしていきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	・毎日、支援記録を記入し、支援前には前日の確認をするようにしている。 ・2年前に様式を変更してから、より詳しく支援記録の記入ができています。	今後もよりわかりやすい支援ができるように、記録の仕方や支援者への周知理解につなげられるように改善していきます。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		定期的なモニタリングはお子様の発達に欠かせないものなので、継続して行っています。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	100%	0%		基本的な活動の上にお子様一人おひとりに合わせたプログラムを作成しています。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	・児童発達支援管理責任者が参加している。	今後も専門性を発揮してお子様の支援を継続していきます。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	・学校や保護者から行事など情報を得ている。 ・送迎時間の短い時間ではあるが情報を得たり、コミュニケーションを取っている。	今後も十分な連携を継続していきます。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0%	0%		医療的ケアが必要な子どもは受け入れていませんが、水分摂取量の管理や食事形態等に配慮が必要な子どもは受け入れており、十分な配慮を行っています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	33%	67%	・サポートブックを利用している。	ご利用者によっては事業者が必要とする資料や情報が得られないことがあります、その場合は直接保護者にお聞きするなどしています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	・同じグループの生活介護事業所には情報共有をしている。 ・今年初めて大学に進学される方がおられるので、今後検討が必要と思われる。 ・必要に応じて行っている。	移行支援に関しては文書を作成したり、口頭でお伝えすることでスムーズに移行できるように心がけています。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	67%	33%		肢体不自由児のお子様に関しては、リハビリ施設などの専門機関の担当者や情報を交換していますが双方の日程や都合が合わないことが多く、十分な連携が取れないことがありました。今後は定期的な研修を計画していきます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	67%	33%	・直接交流はできていないが、学校の行事、公民館の行事には積極的に参加をしている。今後も交流を広げたいと思っている。 ・公民館等での行事に参加しています。	今後はもう少し積極的に地域活動に参加できるようにしていきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	67%	33%		自立支援協議会への参加はまだ不十分ですが、まずは管理責任者を中心に連携をとっていきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	・連絡帳や送迎時には必ずコミュニケーションを取るようになり、情報共有に努めている。	今後も継続していきます。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	67%	33%	・可能な限りご利用の希望を受けている ・積極的には行っていませんが、相談等があれば一緒に考えています。	ペアレント・トレーニングは十分な時間と計画が必要なもので、なかなか定期的な取り組みができていません。
30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	67%	33%		ご質問には十分な説明をおこなっていますが、時間をとって丁寧に話しすることができないこともありましたが。今後は保護者のご理解いただけるようにしていきます。	
31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	・お応えできることは支援している。	今後も可能な限りの支援を行っていきます。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	33%	67%	・行っていない。	時間やお子様の活動日などが様々でなかなか連携の支援ができていません。ご希望の保護者には個別に連携できるように声掛けをしています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	・スタッフからすぐに報告され、管理者が迅速に対応し、スタッフ間で共有している。	事業所内ではその日のうちに職員間で周知が必要であれば事務局への報告を行っています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%		今後も継続していきます。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		今後も個人情報が漏れないよう厳守してきます。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		今後もお子様や保護者の気持ちに寄り添った支援を行っていきます。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	67%	33%	・ここ数年コロナ禍だったため控えていたが、今後は必要だと思っている。 ・招待等はしていないが見学等はいつでも受け入れている。	イベントなど地域にもう少し早めに情報提供するなどしていきたいです。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	ホームページ、連絡帳にて、訓練報告をしている。	今後も開かれた事業所の活動として十分な周知を継続していきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	・年2回避難訓練をし、確認をしている。	非常災害に地震、自然災害等の緊急避難だけでなく、事業所内での一時避難などを想定して、備蓄品等の見直しを行っていきます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	職員全体研修で虐待防止研修を行った。	今後も研修を継続することで職員のさらなる意識向上をはかっていきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	67%	33%	・身体拘束の必要性については職員間で必ず話し合っている。 ・これから計画に盛り込みます。これまでもご家族への確認は行っていました。	職員間でも虐待防止の研修を行っているが、判断が難しいことがあるので事業所内での共通理解を徹底していきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	67%	33%	・現在の利用者にはおられない。 ・食物アレルギーがあるご利用者様は現在はおられません。	アレルギー等に該当するお子様はおられませんが、支援職員が一定の知識を持ちながら対応することで配慮し、安全に過ごすことができるようにしています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%		事業所内に置いておき、いつでも見られるようにしています。